



農協だより

稲作講習会



内容 ☆ 健苗育苗と田植後の管理まで
☆ 除草剤の効果的な使用方法について

時間 * 午前の部・10:00 より
* 午後の部・1:30 より

各支店の日程

日時	3月5日(月)		3月6日(火)		3月7日(水)		3月8日(木)		3月9日(金)	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
会場	畑賀 2階	阿戸 2階	萩原 2階	中須賀 2階	東海田 2階	中野 2階	上瀬野 3階	瀬野 2階	追分	初神 老人集会所

皆様お誘いの上、お気軽にご参加ください。

活菜倶楽部春まき野菜の栽培講習会



2月6~8日「春まき野菜の栽培講習会」を開催いたしました。今回は、野菜に使用する農薬について栽培行程に合わせた使用方法や農薬の剤形による特徴、主要病害虫の特徴などの内容で講習会を行いました。活菜倶楽部事務局より平成23年12月末の累計売上高は、62,519,000円、売上点数は、478,032点と実績報告がありました。

活菜倶楽部では、新規会員を募集しております。お問い合わせは、Aコープ各店へお願い致します。



市長と農業者との懇談会

平成24年2月1日JA広島市本店にて広島市農業振興協議会、広島市農業委員会の主催により「市長と農業者が本市の農業・農村の実情とこれらの農業のあり方について情報交換の場とすること」を目的に農業者、農業委員、農協役員、市等関係者が参加して開催されました。今回のテーマは「農業・農村の多様な担い手の育成」で農家代表の5名が発表されました。発表後、市長より「貴重な農業体験や実情を聞き大変参考になりました、これからの市政の参考にしたい」とコメントいただいた後、ひろしまそだち産品で作った弁当を食べて意見交換をいたしました。

スローライフで夢づくり

広島市農林水産振興センターの「スローライフで夢づくり」「農業体験指導者」の研修生11名が2月13日に、Aコープ中野店の活菜倶楽部の売り場の見学と「スローライフで夢づくり」の研修終了後、阿戸地区で新規就農された方の圃場を視察されました。現在、これらの研修を終了して管内に就農された方は、畑賀地区5名、中野地区2名、上瀬野地区1名、阿戸地区4名で10~30aの圃場で野菜等生産されており、遊休農地の有効利用、地元農家との交流と地域の活性化に貢献しています。

今回、視察に来られた平成23年度研修生の1名は、上瀬野地区へ就農が決まりました。頑張っていたきたいと思います。



水稻種初めの温湯消毒の日程

- ①3月21日(水) ②3月22日(木) ③3月26日(月) ④4月5日(木)
 - ⑤4月6日(金) ⑥4月9日(月) ⑦4月19日(木) ⑧4月20日(金)
- 完全予約制です。詳しくは営農指導センター(855-6176)までお願いいたします。

けい酸加里フレスミア34

水稻は夜温が高い場合、カリ、次いでケイ酸の吸収が悪くなります。ケイ酸とカリの十分な施用が丈夫な稲体づくりに不可欠です。基肥施用で耕起前に40~60kg(2~3袋)/10aです。詳しくは別紙を添付しています。3月末まで予約価格2,580円(ご予約は各支店購買窓口まで)

ご案内 農業講座受講生募集!

来年度も『野菜』の基本的な栽培管理や栽培実習を行い、実際に「見て」「体験」する野菜現地講習会を育苗センターで行います。受講生は初心者から出荷農家までを対象とさせていただきます。5月から12月までの月1回午前9:30から下記の通り開催します。受講料は1人2千円、募集人数は20~30人の予定です。申込方法は、3月19日(月)より各支店購買部に申込用紙を用意しますので、受講希望の方は、4月13日(金)までに申込用紙を各地区購買センターへ提出してください。

≪ 講習開催日 ≫

月日	内容	月日	内容
5月8日(火)	果菜類初期管理 他	9月4日(火)	葉たまねぎ定植 他
6月7日(木)	整枝管理 他	10月2日(火)	冬取り軟弱野菜 他
7月13日(金)	夏まき野菜の種まき 他	11月13日(火)	トンネルだいこん 他
8月9日(木)	冬取りきゃべつ他	12月4日(火)	反省会

3月 営農メモ

野菜

種まき

3月になるとはくさいやねぎ類ほうれんそう、にんじん、ごぼうなどの播種が行えるようになります。気温はまだ低い時期ですのでトンネル被覆して生育を安定させましょう。

2月下旬頃より馬鈴薯の植付けも行えるようになりますが、基肥に堆肥や石灰資材を多用するとそうか病になりやすいので施用量に注意してください。

圃場管理

秋～初冬に播種したトンネル野菜が収穫期となります。3月上～中旬にはトンネル内が30℃を超す事がありますが、そのままだと軟腐病などにかかりやすいので換気を始めます。

換気の初めは一度にはぐると葉が傷む事がありますので、風下側より裾の一部をはぐり、徐々に換気部分を増やす様にします。換気を始めると乾燥しやすくなりますので灌水を行いましょう。

病害虫

気温が高くなり病害虫の被害が出始めます。発生初期に登録のある農薬を散布しましょう。

菌核病 秋～春にかけて多数の作物で発病します。キャベツでは結球開始頃より下葉から発病し病斑部に白いカビが生え、被害末期には発病株全体が腐敗、枯死します。曇天が続く場合被害が多くなります。被害株の残渣は圃場外へ移動させましょう。

農薬 トップジンM水和剤、ベンレート水和剤、ロプラール水和剤など
軟腐病 主に梅雨頃や初秋に多い病気ですが、春先のトンネル栽培でも発生が多くなります。地面に接した葉柄に淡黄色の小斑点ができ、病気が進むと軟化、腐敗して悪臭がでます。細菌性の病気のため銅剤で予防散布しましょう。

農薬 Zポルドー、スターナ水和剤、キノンドー水和剤40など
べと病 3月頃はハウスでのほうれんそうやたまねぎなどで発病が多くなります。葉の表側に淡黄色の病斑ができ、多湿時には病斑部の葉裏に灰色のカビが発生します。曇天日が続く場合被害が多くなりますので、早期防除を行いましょう。

農薬 Zポルドー、アリエッティ水和剤、リドミルMZ水和剤、プロポーズ顆粒水和剤など

水稲

種子更新

何年も種籾を更新していないと品質低下の原因になりますので、2年に1回は種籾の更新を行って下さい。

塩水選

種子消毒の効果をより高めるため、塩水選を行いましょう。
水 10ℓ に対し 塩を 2.2 kg (もちは 1.2 kg) を溶き、種籾を沈め水と充分馴染む様攪拌し、浮いた籾には不稔粒や病害虫の影響を受けたものが多いので、ていねいに取り除きます。
塩水選後は流水で塩分を充分に落としてから種子消毒を行います。すぐに消毒しない場合には充分乾燥させてから清潔な場所で保管して下さい。

柿の品種の紹介

太月(不完全渋柿) 収穫期(育成地)は、10月下旬～11月上旬の中生の不完全渋柿です。果形は、やや扁平で果実大きく平均 447g になります。果皮の色は橙黄色。適熟果の肉質はやや粗いですが、軟らかく多汁です。糖度は、14.6%程度で「平核無」と同程度です。果頂裂果やへたすきはほとんど発生しませんが、条紋が発生しやすい特性があります。樹勢は強く樹姿は開張します。雌花の着生は多く雄花は着生しませんが、単為結果力が強いので受粉樹は不要です。収量性は高く 10a 当たり 3 トン以上の生産が可能で「富有」より多収です。過度に着果させると糖度が低くなります。

太天(渋柿) 収穫期(育成地)は、11月上旬～中旬の晩生の渋柿です。果形は扁平で果実は大きく平均 490g になります。果皮の色は橙黄色。肉質は軟らかくてやや粗く熟度が進むと滑らかでち密になります。糖度は、16%程度で極めて多汁で食味が優れる。果頂裂果やへたすきはほとんど発生しませんが、条紋が少し発生する。樹勢は強く、樹姿は開張、雌花の着生は多く開花期は「富有」より 4 日程度早い。雄花の着生はわずかです。単為結果力は低いが種子形成力は強く受粉樹がある条件では結果は安定している。収穫性は高く 10a 当たり 3 トン以上の生産が可能で「富有」より多収です。受粉樹には、「禅寺丸」「筆柿」が適します。

早秋(完全甘柿) 収穫期は、9月下旬～10月上旬で、早生の完全甘柿です。果形は扁平でやや果形が乱れやすい。果実重は 250g 程度で肉質はやや軟らかく緻密であり果汁が多く食味は良好である。早生品種としては日持ち性が良く育成地では 13 日程度日持ちする。へたすき果の発生はほとんどない。樹勢は中程度で樹姿は開帳である。雄花は着生しない。完全甘柿であり、夏秋期の気温の高い地域に適応し早期落果がやや多い傾向があるので、受粉樹の混植や人口受粉など種子形成を促す管理をするるとともに二次伸長しかけた芽をかき果実と新梢との養分競合を防ぐのが良い、また、炭そ病にやや弱い。

太秋(完全甘柿) 収穫期は、10月中旬～下旬で、大果で非常に食味の良い完全甘柿です。肉質がサクサクとして軟らかく、果汁がすこぶる多いのが特徴。果実の大きさは 400g 程度。果頂部に条紋と呼ばれる同心円状の微小な亀裂が生じやすい、外観が優れないが、条紋を生じた部位は他の部位より 2～3%程度糖度が高いため、食味が優れている。雄花が生じやすく、雌花が少なくなりやすい。収量確保のため、安定して雌花を着生させる技術が検討されている。
(独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 果樹研究所より)

種子消毒・浸種

水 20ℓ に対し テクリードCフロアブル 100ml (200 倍) + スミチオン乳剤 20ml (1,000 倍) を溶き、攪拌後消毒します。(籾 15 kg に対し、薬量 20ℓ 程度必要です。)

水温が 10～30℃ 取れる場所で消毒して下さい。24 時間後、風乾させてから浸種となります。浸種は始めの 2 日間は薬の効果をあげるため水の入替えはせず、3 日目より水の交換を行って下さい。(種籾の量が多い場合は上下の入替えも行って下さい。)

浸種開始後(種子消毒開始後)、水の積算温度が 110℃ 前後で鳩胸状態を確認し、発芽を揃えるため 30℃ で 24 時間程度催芽を行って、芽が 1 mm 程度に伸びた籾を播種しましょう。